

We Shall Not Sleep 私の父は戦争に行った。

私の父は戦争に行った。

私の母と結婚したその年に戦争に行った。

父が戦争に行っている間、母はもう2度と会う事が無いかもしれない夫の娘を産んだ。

その娘が2歳の時、戦争が終わりに近づき、父は長い月日をかけて中国を銃を担いで北から南へと南下し、痩せこけた、細い体で日本で待っている妻の元に戻り、初めて見る父を怖がる自分の娘に会った。そして、兄が生まれ、私が生まれ、弟が産まれた。

その戦争の後、人々はがむしゃらで働き日本は豊かな国になった。私が大人になった時、私は戦争に行った時の事を父に聞いた。すると父の目はクルクルと忙しく動き出し、その目が心の奥底にたどり着くと、深いため息と共に『友達が私の横で死んで行ったんだよ、たくさんのたくさんの人が死んでいくのを見て来たんだ』と唇を震わせ、顔を歪めながらつぶやいてまた深いため息をついた。私はこれ以上もう何も聞くことは出来なかった。

戦争を経験した人達は、生々しく大きく開いたまま決して治る事のない心の傷を、心の奥底に押し込んで、生きていかなければならない事を私はその時強く感じた。

また、日系2世のカナダ人である私の義理の父と母はカナダで生まれ育ちながら、敵国の日本人として、家族と共に強制収容所に送られた。ただ、当時18歳だった義理の父は家族と離れ強制労働をさせられた、そして長い、長い月日が経ち、私の父と母も義理の母と父も死んだ。

そして今何事もなかったようにまた新しい戦争が始まった。